

世田谷村日記

石山修武

五月十七日 つづき

夕方梅沢良三事務所へ。三物件の打合わせ。何とか三物件共に共通した構造形式に持ち込めたのでハードルは超えているとは思ふ。次へ進みたい。ようやく自分のスタイルらしきものに辿り着いたかとも思うが、また変わるだろう。同じモノを作り続けるという、そういうタイプの欲求が、自分には無いのかも知れない。

五月十八日

雨が上がらない。今日は星の子愛児園の開園のお祝いの会が午前中にある。

十一時星の子愛児園落成式。近藤理事長より過分なごあいさつと感謝状をいただく。高橋工業ブラザー、熊谷組佐々木所長と鳥山宗柳でソバを喰う。縁というものはつくづく不思議なものだ。

五月十九日 日曜日

いつも何をやるうかと計画ばかり立てている気がするな。午後ブロンペンの渋井修さん来宅。ひろしまハウスは今年中に完成はしなくとも使えるようにしようという事にした。金をひねり出さなければならぬ。

五月二〇日

ゲーテのイタリヤ紀行読み進めているが、この巨人は意外に直

観的な自然科学者の風がある。天候に関する記述などは今にも通用する。地球環境的概念はゲーテの天候に関する感覚によってとくに先取りされていた。宮沢賢治の鉱物学好みも、ゲーテと比較すると・・・いかにも無念なものだなあ。

夜河口湖聖徳寺打合わせ。帰りにBar TOTAN再訪。夜中の一時半頃帰宅。

五月二一日

世間が凍結したような感じになっている。衰退期に特有なものだろうか。と言ってもかかってくる電話の数が減ったくらいの事なんだが。大ゲサだなあ我ながら。午後ワークシヨップ卒業生高橋香里さん来室。近況報告。陸海、石井相談。その後二件面談し学校を去る。中国のコンペの話が持ち込まれた。スタッフ土谷の次のステップを考えなくてはならない時期になった。頼りになるのは志だけなんだ最後は。志なんて古い言葉のようだけれど、今風に訳せば日々の目標を持つ生気の持続って事。言うは易し、行つのは困難極るけれど、そうして欲しい。